

所信表明演説をめぐる新聞記事のキーワード分析 Keyword Analysis of the Newspaper Article Involving General Policy Speech

小野 展克, 岡本 潤
Nobukatsu ONO and Jun OKAMOATO

嘉悦大学 ビジネス創造学部 Kaetsu University Faculty of Business Innovation

要旨・・・本研究は小泉純一郎首相から安倍晋三首相（第二次）までの七代の首相が就任直後に行った所信表明演説で訴えた政策課題を示す「構造改革」などのキーワードを選定し、朝日新聞などが記事上で、その政策課題を報道した頻度と文が持つ印象がポジティブかネガティブかを言語処理の手法を活用して定量的に分析した。所信表明演説を題材に、首相が訴えた政策上のキーワードが、その後の新聞で記事化された頻度、キーワードが与える印象を分析、国民に首相の政策への取り組みがどう伝えられたのかを把握することを目指した。

キーワード 所信表明演説 首相 新聞 言語処理 公共政策

1. はじめに

M・E・マッコームズとD・L・ショーはマス・メディアの機能について、タイムリーな話題について争点を示す「議題設定機能」(agenda-setting function)を提示している。

就任直後に首相が実施した所信表明演説は、その首相が何を政策課題として実行したいのかを国民に示す最も効果的な場の一つである。マス・メディア側も、首相の登場直後は厳しい政策批判を手控える「ハネムーン期間」を設定するため、最初の所信表明演説については、首相の伝えようとする政策課題を率直に記事化する傾向が強い。そのため最初の所信表明演説は、マス・メディアが首相の意図に近い形で「議題設定機能」を発揮しているケースが多いと考えられそう。ただ、その後の報道は、「中立公正」を前提に、反対論を記事中に盛り込むなどバランスのとれた紙面編集が目指される。特に時の首相が掲げる主要な政策課題については成否への評価、批判も含めて様々なトーンで記事化されていくことになる。

本研究では、所信表明演説を題材に、首相が訴えた政策上のキーワードが、その後の新聞で記事化された頻度、キーワードが与える印象を分析、国民に首相の政策への取り組みがどう伝えられたのかを把握することを目指した。

記事を言語処理の手法を活用して解析した先行研究としては、ミドルエイジ向けのファッション誌の記事を分析、そこに描かれている身体「老化」イメージを明らかにした谷本奈穂(2013)などがある。先行研究で得られた知見を生かしながら、視点を政策課題の設定に向けた研究に取り組んだ。

2. 研究の方法

本研究では朝日新聞などが各首相の就任直後の所信表明演説を記事化した際に設定したキーワードを各首相ごとに5つずつ選定、首相が示した政策課題を新聞がどう議題設定したのかを把握することを目指した。例えば小泉首相の場合、「構造改革」「不良債権」「郵政民営化」「財政再建」「証券税制」の5つを選定した。さらに、その5つのキーワードが各首相の在任期間中に、記事中で使用された頻度とキーワードが与える印象を自然言語処理の手法で解析した。具体的には2001年4月26日の小泉首相誕生時から安倍首相（第二次）の2013年8月22日までを対象期間として朝日新聞で歴代首相名をキーワードとして含む記事をすべて収集、約5万7千本の記事を分析対象にした。記事の収集については朝日新聞社の「聞蔵II」を使用した。

記事の文を入力文とし日本語係り受け解析器 Cabocha (Kudo & Matsumoto 2002) を用い、語の最小単位となる形態素とその品詞情報と係り受け情報を取得した。たとえば「国土交通省が揺れている」という文をCabochaで解析した場合は、図1のような結果が得られる。

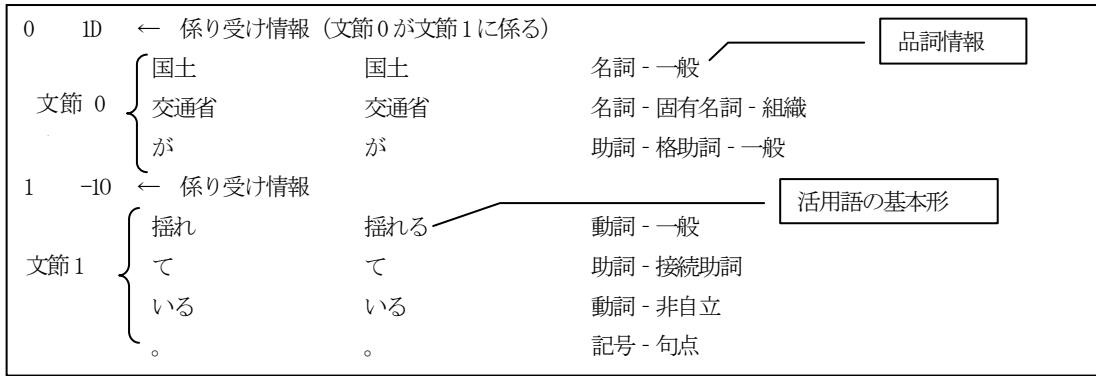


図1 「国土交通省が揺れている」を入力文とした係り受け解析の結果

「国土交通省」は「国土」「交通省」に分割されるので、このような名詞の複合語は一つにまとめる処理を行った。次に、記事中で各キーワードがどのような語と共起する頻度が高く、どのような評価や印象を受けているかを調べるために、東北大の乾・岡崎研究室が作成した「日本語評価極性辞書」の用言編と名詞編を用いて評価を表す語と各キーワードが同一文にともに出現する頻度を調査した。たとえば「国民は小泉首相の構造改革の路線、『痛みを伴う改革』をはっきりと支持している。」という文では「痛み」がネガティブ、「支持」がポジティブな評価語として抽出できる。しかし、文中で否定的な表現が使われていた場合は評価語のポジティブ・ネガティブの抽出に注意することが必要である。たとえば「構造改革論者だが、最近提言がいつこうに実を結ばない」という文や「構造改革といっても信用できない」という文では「実」「信用」は「日本語評価極性辞書」ではポジティブな評価語とあるが、文意を考えると「実」「信用」をネガティブな表現として抽出することが必要になる。そこで否定語の処理として以下の2つのパターンは評価語の抽出時にポジティブ/ネガティブを反転させることにした。

- ・評価語を含む文節の係り先に助動詞の「ない」や形容詞の「ない」がある場合
- ・評価語を含む文節内に助動詞の「ない」や形容詞の「ない」がある場合

また「構造改革なくして景気回復なし」のような2重否定については前述のような否定語の処理は行わない。

	キーワード	ネガティブ	ポジティブ	PN比		キーワード	ネガティブ	ポジティブ	PN比
小泉首相 1980日	構造改革	1.55	2.17	1.40	鳩山首相 266日	高速道路無料化	0.28	0.29	1.03
	財政再建	0.30	0.37	1.25		子ども手当	0.90	1.53	1.70
	証券税制	0.01	0.01	2.00		政治主導	0.30	0.65	2.15
	不良債権	0.80	0.70	0.87		地球温暖化	0.21	0.40	1.88
	郵政民営化	2.34	2.65	1.13		普天間	5.26	3.65	0.69
安倍首相 第1次 366日	技術革新	0.03	0.11	3.82	菅首相 452日	デフレ脱却	0.08	0.16	2.12
	憲法改正	1.39	2.52	1.82		公務員制度	0.10	0.09	0.98
	財政健全化	0.32	1.26	3.95		財政健全化	0.59	1.50	2.55
	集団的自衛権	0.58	0.89	1.54		税制改革	0.23	0.41	1.80
	政治任用	0.01	0.04	8.00		普天間	1.94	1.25	0.64
福田首相 482日	財政収支	0.06	0.12	1.97	野田首相 482日	TPP	1.74	1.56	0.90
	自衛隊給油	0.26	0.22	0.88		原発依存	0.09	0.18	2.00
	政治資金規正法	0.03	0.04	1.31		原発事故収束	0.16	0.11	0.72
	地域格差	0.15	0.10	0.64		消費税	0.76	0.76	0.99
	年金改革	0.09	0.15	1.69		復興震災	0.50	0.40	0.81
麻生首相 358日	後期高齢者	0.35	0.21	0.58	安倍首相 第2次 239日~	デフレ脱却	0.32	0.76	2.36
	消費者庁	0.18	0.24	1.30		金融政策	0.61	1.60	2.62
	定額減税	1.34	1.66	1.24		憲法改正	1.22	2.82	2.32
	日米同盟	0.09	0.24	2.69		財政政策	0.15	0.49	3.34
	補正予算	1.11	1.51	1.35		成長戦略	0.44	1.37	3.14

表2 首相ごとのキーワードに関するポジティブ・ネガティブな評価語の在任日数に対する割合

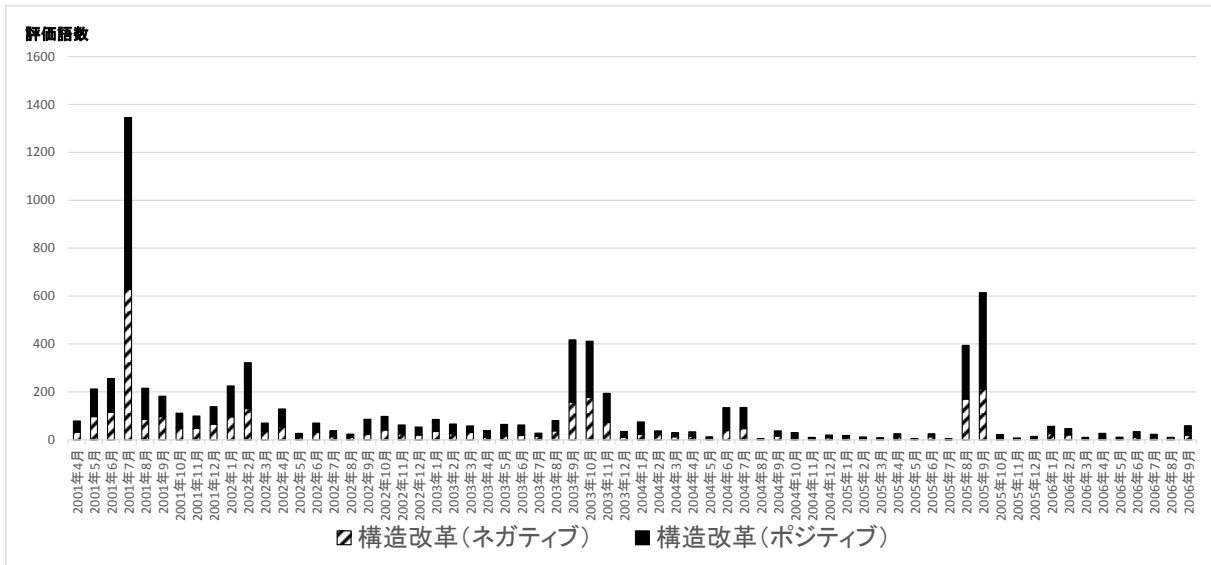


図3 構造改革に関するポジティブ、ネガティブな評価語の数

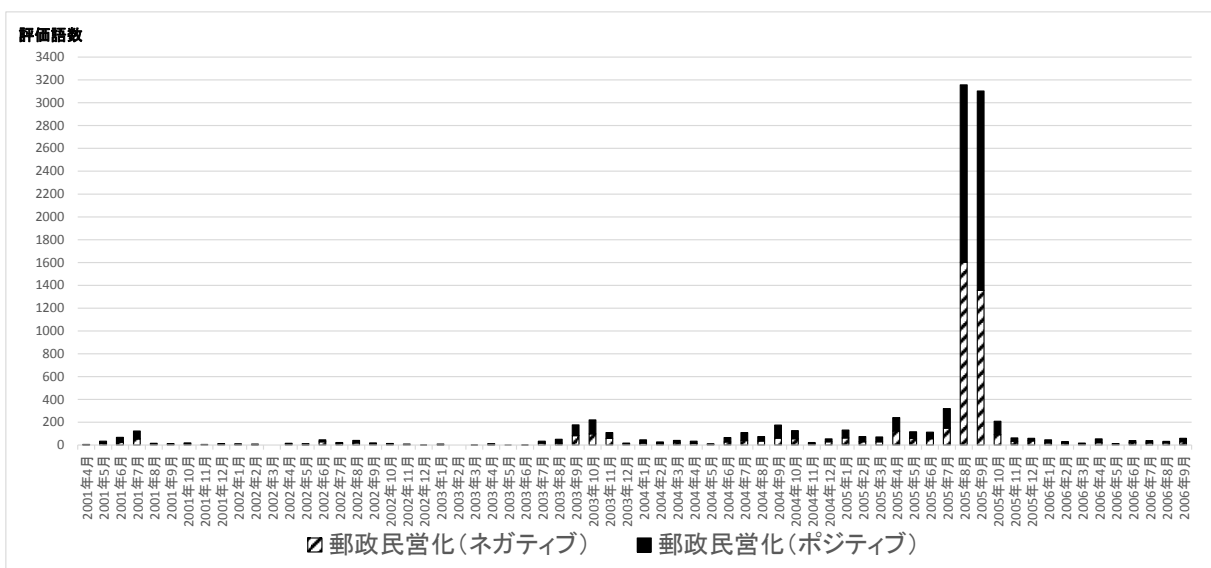


図4 郵政民営化に関するポジティブ、ネガティブな評価語の数

3. 得られた知見

例えば、小泉首相が示したキーワードである「構造改革」は、小泉首相の在任期間中（01年4月26日～06年9月26日）に3115本の記事に登場した。構造改革が含まれるセンテンスの中で、「期待」「支持」などのポジティブなイメージを持つ言葉（評価語）の出現回数が、4303回で1日当たり2・17回、「悪化」「不満」などのネガティブなイメージの評価語の出現回数は3065回で1日当たり1・55回となった。さらにキーワードをめぐるポジティブな表現の出現頻度をネガティブで割った比率（PN比）を算出、「構造改革」の場合は1・40となり、ポジティブなイメージを与えるキーワードの出現回数が多いことが判明した。読者は朝日新聞の記事から構造改革についてポジティブな印象を与えられていたと考えられる。各首相ごとに選定した5つのキーワードのうち、ポジティブかネガティブの評価語で位置付けられた頻度が1日あたり1回以上だった「注目キーワード」は、小泉首相が「構造改革」と「郵政民営化」の2つ、安倍首相（第一次）が「憲法改

正」「財政健全化」の2つ、福田首相はゼロ、麻生首相は「定額減税」と「補正予算」の2つ、鳩山首相は「子ども手当」と「普天間」の2つ、菅首相は「財政健全化」と「普天間」の2つ、野田首相は「TPP」のみ、安倍首相（第二次）は「金融政策」「憲法改正」「成長戦略」の2つだった。「注目キーワード」の中でも特に登場頻度が高かったのは鳩山首相の「普天間」のネガティブ評価語の5・26回、安倍首相（第二次）の「憲法改正」のポジティブ2・82回、小泉首相の「郵政民営化」のポジティブ2・65回、同じく小泉首相の「構造改革」のポジティブ2・17回だった。

さらに、キーワードの出現頻度とPN比が時系列でどう変化したのかも算出した。例えば図3で示した小泉首相の「構造改革」の場合、出現頻度が大きく跳ね上がった時期は、2001年7月と2003年9月・10月、2005年8月・9月の3回である。最初の01年7月には参議院選挙が実施され、小泉首相率いる自民党は過半数を制して勝利した時期だ。次の03年9月・10月は、10月に衆院解散、11月に総選挙という時期で、構造改革の是非が政権選択のテーマとなった。3番目の05年8月・9月は8月に衆院解散、9月に総選挙が行われ、小泉首相が圧勝、衆院で過半数を握った。小泉首相が郵政民営化を掲げたいわゆる郵政選挙で、「構造改革」もキーワードの一つとして注目された。

01年7月はポジティブな評価語が718回、ネガティブが628回で、PN比は1・14、03年9月・10月はポジティブ495回、ネガティブ334回でPN比は1・48、05年8月・9月はポジティブ625回、ネガティブ383回でPN比は1・63となった。小泉首相の「構造改革」のPN比は、政策が争点化する選挙という節目ごとに大きく上昇、朝慈悲新聞が「構造改革」をプラスのイメージで読者に伝えるように変化していることがうかがえる。

図4で示した小泉首相の「郵政民営化」の場合は、衆院解散の時期にあたる2003年9月・10月はポジティブ217回、ネガティブ179回でPN比は1・21、郵政問題が国会などで争点化した05年4月はポジティブ117回、ネガティブ123回でPN比0・95、郵政解散の05年8月はポジティブ1555、ネガティブ1602でPN比は0・97、郵政選挙の05年9月はポジティブ1747、ネガティブ1356でPN比は1・29となり、朝日新聞の紙面上で「郵政民営化」をめぐる賛否両論の議論が激しく展開されていたことがうかがえる。

4. まとめ

キーワードの分析を通じて把握できたのは、世論調査での支持率が高く在任期間が長いなどの「強い首相」は、出現頻度の高い「注目キーワード」を多く持っている上、キーワードのPN比がプラスもしくは大きなマイナスになっていない傾向がうかがえる。就任直後の所信表明演説で示した政策上のキーワードを新聞記事にプラスのイメージを伴って繰り返し登場させられた首相は、国民の支持を集めることにもつながっているようだ。

例えば小泉首相は、2つの「注目キーワード」の両方が、ポジティブの出現頻度が1日当たり2を超えている。PN比率も二つともプラスだ。安倍首相（第二次）は注目キーワードが3つあり、「憲法改正」はポジティブが2を超えている。一方、鳩山首相の「普天間」は、ポジティブの出現頻度が3を超え最高だったが、ネガティブが5を超えるワースト記録で、PN比は0・69と大きくマイナスに振れている。その他の首相で出現頻度が2を超えるキーワードは安倍首相（第一次）の「憲法改正」のみで、福田首相のゼロを筆頭に菅首相、麻生首相、野田首相も新聞記事を賑わす政策上のキーワードを提示できていなかったと言えそうだ。日本経済新聞や読売新聞など他の新聞との比較などが今後の研究課題となる。

参考文献

- 1) 谷本奈穂 (2013) 「ミドルエイジ女性向け雑誌における身体の「老化」イメージ」『マス・コミュニケーション研究』 83:5-29
- 2) 小野展克 (2008) 「経済報道と企業信用」『生活経済学研究』 28, 55-70
- 3) 駒橋恵子 (2004) 『経済報道の経済的影響—市場のゆらぎ増幅効果—』お茶の水書房
- 4) T. Kudo and Y. Matsumoto, (2002) "Japanese Dependency Analysis using Cascaded Chunking", Proc. of CONL 2002, 63-69
- 5) 小林のぞみ, 乾健太郎, 松本裕治, 立石健二, 福島俊一 (2005) 「意見抽出のための評価表現の収集」『自然言語処理』 Vol.12, No.3, 203-222
- 6) 東山昌彦, 乾健太郎, 松本裕治 (2008) 「述語の選択選好性に着目した名詞評価極性の獲得」『言語処理学会第14回年次大会論文集』 584-587